

## 価値ある古典庭園

日本庭園の素晴らしさは世界的に有名だ。金沢市の兼六園、岡山市の後樂園、水戸市の偕楽園に代表されるが如く、全国各地に見事な庭園が存在する。蘇州にも世界文化遺産に登録される程の名園が四つもある。その内、中国を代表する四大名園に北京の頤和園<sup>い わ え ん</sup>、承德の避暑山莊と並んで、蘇州からは拙政園<sup>せつせいえん</sup>と留園<sup>りうゆえん</sup>の二つが入っている。



私が訪ねたのは敷地面積約 5 万平方の蘇州で最も大きい古典庭園「拙政園」。ここは中国ナンバーワンといわれる名園でもあった。

この拙政園は 1509 年に官僚の王献臣によって造営されたもの。王献臣は官僚を追放され官界に失望して、故郷の蘇州に戻って庭園を建造する。園名は「拙いものがまつりごとをするのは悠々自適、閉居を楽しむことなり」から命名された。拙政園の特徴は自然を取り込んだ優雅な風格を持っている。池を中心に東部、中部、西部の 3 部分からなり、南部は住居部（蘇州博物館）となっている。

各方角によりそれぞれの特色を持っている。東部は伸びやかで野の乙女。中部は優雅にして艶やかな熟女。西部では密やかで淑やかな淑女。取り分け中部の風景は優れている。青々とした水面には四季折々の花が映え、柳が風にそよぎ、古式ゆかしい建物や個性豊かな橋が優雅さを醸し出していた。当時において贅の限りを尽くした名園であったに違いない。遙か 500 年前に思いを馳せ、しばし主になった気分を共有することが出来た。

撮影 2010 年夏

